

# 中国インターンシップ(日本語 T.A.)体験記

関西外国語大学 英語国際学部 4年 神原東沙

派遣先大学:天津外国語大学

派遣期間:2017年2月~2017年6月

## 1. 派遣前

### (1) 中国インターンシップに参加しようと思った理由

私がインターンシップに参加しようと思った理由は、三つあります。

一つ目は、今しかできないことにチャレンジすると決めていたからです。私は大学1年生の時、授業が終わると、地元に戻ってアルバイトに行く毎日を過ごしていました。それが大学生にとっては普通だと思っていました。しかし、二年生の時に経験した留学で、たくさんの人と交流したことで私の考えが変わりました。異文化を体験することで、自分が今まで小さな世界で生きてきたことを実感しました。周りに流されて、ただ普通の大学生として過ごしてきたことにとっても後悔しました。そう思ってからでは後悔しないために、「やってみたい。面白そう。」と、思ったことや興味を持ったことに必ずチャレンジしているので、このプログラムにも参加しようと思いました。

二つ目は、将来何をしたいかわからなかったからです。三年生になると就職ガイダンスがあったり、企業のインターンシップに参加したりと、就職について考える機会が多くなります。そんな中、私はいくら考えても、将来何がしたいか全くわからなかったので、考えるより行動することが大切だと思いました。関西外大は様々なプログラムがあることを思い出し、調べてみると、このインターンシッププログラムを発見しました。私は就職活動するよりも、関西外大生にしかできない経験をしてから、将来について考えようと思いました。

三つ目は、教育現場に興味を持っていたからです。私は塾講師のアルバイトをしていて、生徒に勉強を教えることが好きでした。このインターンシップで、アルバイトとは違った教育現場を体験できる事ができると思って、とても興味がわきました。将来、教育者になりたいわけではありませんでしたが、興味がある分野で貴重な体験をしたいと思いました。

### (2) 中国インターンシップの選考試験に向けて行った取組みや準備について

私は日本語教育課程を専攻していないため、専門的な知識はありません。さらに中国語も特別上手というわけではありません。ですが、インターンシップに参加したい強い気持ちを持っていました。このインターンシップの応募要項を見た時に、私にとっても向いていて、私にしかできないと直感で思いました。選考試験は面接だったので、その気持ちがいかにしっかりと伝わるように今まで経験してきたことや、インターンシップでしたいことなどを整理していました。その時の気分や勢いではないかと自問自答を繰り返した後、やはり参加したい気持ちがあったのでその気持ちで面接に臨みました。

### (3) 候補生になってから、出発前までの取組みや準備について

私は学務課から、先輩からのアドバイスが書いてある冊子を頂きました。私はその冊子を何度も読み、特に天津外大に派遣されていた先輩からのアドバイスを熟読しました。経験者のアドバイスで私は空回りすることなく、出発までの約3か月は、焦らずゆっくり自分のペースで、先生から薦めていただいた本を読んだり、日本と中国の歴史について復習したりしました。また、自分自身の日常生活を写真に撮っていました。

また、候補生になってから模擬授業がありました。このインターンシップで一番辛かったのは、この模擬授業と言っても過言ではありません。私は教育の知識が全くなくて、何をすればいいのかわからず不安なまま1回目の模擬授業に参加しました。案の定、1回目は授業と呼べるようなことは何もできずに終わってしまいました。それから、2回目の模擬授業に向けて先生方や教職専攻の友人の話をたくさん聞き、アドバイスをもらいました。正直、2回目は自信がありました。これも授業にならないほどの結果でした。この経験から、もっとたくさんの人の話や経験を聞いて、自分は何をしたいかを明確にすることが必要だと感じたので、それまでより多くの人と話す機会を増やしました。そうすることで、視野が広がり、柔軟な考え方を持てるようになりました。

## 2. 派遣後

### (1) 担当科目、担当クラスについて

- I. 1年次 会話授業:基礎日语演習2(3月1日~6月15日迄)
- II. 日本語大学四級試験 模擬試験作成(3月1日~3月15日迄)
- III. 2年次 作文添削(4月24日~6月10日迄)
- IV. 1.2年次 スピーチ指導(5月1日~6月3日迄)

時間割	月	火	水	木	金
1.2 限 (8:00~9:40)	基礎日语演習2 (3.4組)	基礎日语演習2 (1.2組)			
3.4 限 (10:00~11:40)					
5.6 限 (12:00~13:40)	昼休み				
7.8 限 (14:00~15:40)			基礎日语演習2 (7.8組)		
9.10 限 (16:00~17:40)			基礎日语演習2 (9.10組)	基礎日语演習2 (5.6組)	

#### ① 時間割表

## ② 担当科目と教科内容

### I. 1年次 会話授業：基礎日本語演習2 (3月1日～6月15日迄)

・使用テキスト『基礎日本語口語教程①』出版社：高等教育出版社・北京

1～6組：教科書第1課から第12課まで、毎週1課ずつ学習する。授業開始約30分は、出席を取りながら前回の復習をする。1課毎に学習テーマ・要点（文法）があるので、その内容に沿った会話文（自分で作成）と教科書の練習問題で、ロールプレイで会話練習をする。会話練習の後、全生徒が発表する。

7～10組：教科書第1課から第13課まで、毎週1課ずつ学習する。授業開始約40分は、クラスの約半数をランダムに当ててスピーチをしてもらう。スピーチテーマは毎回宿題として出す。その後約20分間、前回の復習をする。1課毎に学習テーマ・要点（文法）があるので、その内容に沿った会話文（自分で作成）と教科書の練習問題で、ロールプレイで会話練習をする。会話練習の後、約半数の生徒が発表する。

（※1年生会話担当の先生が二人いらっしゃって、先生によって授業の進め方の指示が少し違いました。）

この授業では主に、日常会話能力を身につけることを目指します。日本でよく使うフレーズや会話、また中国で日本人留学生と交流する時の表現などを学習します。また、天津外大は1年次終了までにN4（日本語能力試験4級）取得を推奨しています。

### II. 大学日本語検定試験四級 模擬試験作成(3月1日～3月15日迄)

・使用テキスト：大学日本語検定試験四級参考書

参考書の問題を組み合わせて、模擬試験を作成。その模擬試験が、いつどこで使われるかは不明。

### III. 2年次 作文添削(4月24日～6月10日迄)

作文授業担当の先生のアシスタント。授業には参加しないが、学生の作文添削をする。毎週月曜日に、担当の先生から2, 3クラス分の作文を受け取り、次の週に訂正した作文を提出する。

\*添削ポイント

- ① 語彙の訂正
- ② 文の訂正
- ③ 前後の繋がり
- ④ テーマと内容一致

#### IV. 1.2 年次 スピーチ指導(5月1日～6月3日迄)

6月3日に開催される、中華全国日本語スピーチコンテスト(第十二届中华全国日语演讲比赛华北赛区)の選手候補生のスピーチ指導をする。5月1日から19日までは、三名の選手候補生を指導し、それ以降は代表に選ばれた一名のスピーチ指導を担当。スピーチコンテストは、テーマスピーチと即席スピーチの二部からなり、主に即席スピーチの指導を担当。

\*指導ポイント

- ① 発音・イントネーション
- ② 文法・語彙
- ③ 内容・構成
- ④ 表現能力

即席スピーチは、テーマを出されてから10分間準備時間を与えられる。スピーチ発表の制限時間は3分で、2分以下3分以上の場合は減点対象となる。そのため、指導も私が考えたテーマを与え、本番と同じ流れでスピーチをしてポイントをチェックし、アドバイスをする。一回の指導で約10テーマのスピーチ指導をする。

#### ③ 担当クラスの様子について

会話の授業は、二クラス同時開講のため最大50人の生徒の前で授業をしました。全体的に、真面目な生徒が多くて授業は進めやすいです。わからないことがあると、積極的に聞きに来ます。ロールプレイ練習後の発表では、その日勉強したことをしっかり吸収してくれます。しかし、会話の授業は週に一回しかないので、授業の始めに前回の復習を取り入れて反復練習が大切です。

授業を受ける際、予習は必須ですが予習していない人はたくさんいます。スマートフォンを辞書代わりに使用している人がたくさんいるので、皆常に机の上にスマートフォンを置いています。解説をするときは、全員が前を向いてしっかり聞いていますが、一部の生徒は、ロールプレイ練習になると動画を見たりゲームをしたりします。

私は1年生全クラスを担当していたので、クラスの雰囲気の違いが一目瞭然でした。1クラスに一人学習委員がいて、宿題を集めたり出席票の管理をしたりします。学習委員がクラスメイトに、しっかり勉強するように促すクラスもあれば、学習委員が宿題の提出を忘れるクラスもあり、彼らがクラス意欲の雰囲気作りの中心だと感じました。そのため、クラスによって日本語レベルに差が出てきます。(レベルによってクラス分けはされていません。)皆が積極的に発言するクラスもあれば、半数以上が授業を理解していないクラスもあります。あるクラスでは、授業内容をすべて理解できる人が、全く理解できない人の隣で授業を受けてサポートしていました。

全生徒が日本語に興味があって、日本語を専攻しているわけではありません。大学受験がきっかけで日本語の勉強を始めた人も多くいます。そんな生徒たちからは、苦手意識が感じられます。全生徒にとって、楽しくて意味のある授業をすることが大切です。

## (2) 2年次教育課程上の中国留学(4か月)との違い、感じたこと

留学とインターンシップとの違いは、たくさんあります。まず始めに、留学する時の心の準備で、このインターンシップを乗り越えることはできません。留学は、自分自身が頑張れば頑張った分だけ成果が出ます。しかし、インターンシップで頑張ることは当たり前です。学生だからといって、特別扱いされることはありません。現地の先生方は、インターンシップ生のことを一人の先生として仕事を与えてくれます。そのため、いつも気を抜くことはできません。常に、プレッシャーと責任がついてきます。

さらに、インターンシップは留学より孤独です。私は不器用なので、インターンシップ開始当初は授業の準備に、毎日5時間かかりました。そのため、留学生や生徒と交流できたのは食事の時だけでした。さらに、初めの1か月は留学生の中国語クラスに参加していましたが、インターンシップの仕事が増えて余裕がなくなり、中国語の授業の参加はやめました。それからは、現地の留学生と時間が合わず、あいさつ程度の関係になりました。私は生徒と遊ぶ機会がたくさんあったので、寂しさを紛らわしていましたが、授業の準備や、一人で作業する時間が多いので、孤独との戦いになります。

そして上記のとおり、中国語の勉強をする時間がなかなか取れなかったため、私の中国語の能力はほとんど上がっていません。しかし、生徒にWechatでボイスメッセージを送って日本語と中国語でやり取りして楽しみました。留学と違って、たくさんの中国人と交流できるので、彼らの文化や習慣をより身近に感じられます。

## (3) 中国インターンシップに備えて派遣前に準備しておいて良かったことと、準備しておけばよかったと思うこと

### 《準備しておいてよかったこと》

#### ◇ イメージトレーニング

先輩からのアドバイスが書いてある冊子を何度も読み、天津外大に派遣されていた先輩からのアドバイスを熟読しました。その時に、どんな生活でどんな授業をするのかをイメージしていました。文面から先輩方がしてきた授業を想像して、私もこんな授業をしようと思い心の準備をしてきました。

#### ◇ 日常生活や学校生活・アルバイトの写真や動画

私たちはまだ学生で、現地の日本人の先生と同じ授業をするのは、知識も経験も少ないのでとても難しいです。逆に言えば、生徒と同年代の日本人の生活をよく知っているのは私たち大学生です。彼らは、流行や若者言葉・方言に敏感ですので普段の生活の写真や動画は準備しておいて良かったです。

#### ◇ 腕時計

授業に慣れるまでは、時間配分がうまくできません。そのため、時間をこまめにチェックする必要があります。先生が携帯電話で時間を確認すると、生徒も携帯電話を使用するので腕時計を使用した方がいいです。

#### ◇ 日本のお菓子

私は、キットカットやうまい棒など合計 200 個ほどのお菓子を持っていきましたが、担当クラスが 10 クラスあったので全員に配ることができませんでした。そのため、友達と遊ぶ時や生徒の誕生日にあげていました。そんなに多く準備する必要はないですが、少し持っていくと喜んでもらえます。あと、現地でお世話になる先生方へのお土産は必須です。私は、箱入りの和菓子を日本語学院に、小分けになったお菓子を指導して下さる先生方に準備しました。

#### ◇ パソコン・USB

授業準備のため、パソコンはほぼ毎日使用していました。私は板書すると、書くことに集中して話せなくなってしまうのでパワーポイントを作成して、授業をしていました。パソコンでも日本のサイトが制限されていることがあるので、VPN をダウンロードすることをお勧めします。

USB はインターネット用に用意した方がいいです。大学内のパソコンに接続するとウイルスにかかることがあります。その日の授業で使うデータだけ USB に移して、帰宅してすぐに削除することをお勧めします。私は、大学の全てのデータを同じ USB で管理していたので、全部消えてしまいました。

### 《準備しておけばよかったこと》

#### ◇ 標準語の練習

生徒は標準語を勉強しています。私は生まれも育ちも関西で、これまで関西弁しか話してきませんでした。授業中は何が関西弁で何が標準語かわからなくなることがあります。自分では標準語と思っている言葉が、関西弁ということがよくあります。生徒は珍しい日本語を聞くことができ喜んでくれますが、授業中は標準語を徹底しなければなりません。私は、ありとあらゆる言葉のイントネーションがコテコテの関西弁で、初めの一か月はとても苦労しました。ニュースを見て、アナウンサーの口調をまねするのがいい練習になります。

#### ◇ 簡単な日本語の参考書

日本語の参考書は、難しいとよくわかりません。母語は自然と話せるようになるので、普段文法を意識して会話することはないでしょう。しかし、会話の授業でも文法の説明をすることはあります。そんな時に簡単な参考書があるとパワーポイントや教案を作る時に役立ちます。私は日本語の文法をどう説明するかわからないことがたくさんありました。会話の授業では、文法を細かく解説する必要はないので、簡単なものを用意しておくべきでした。

#### ◇ SIM フリーの携帯電話

こちらでは、仕事をするのでいつでも連絡が取れるようにするべきだと思います。そこで中国についてすぐ、SIM カードを買いに行きました。中国では携帯電話本体は別売

りなので、Wechat ができると聞いた 100 元のスマートフォンを買いましたが、電話とメールしか使えませんでした。結局日本で使っている iPhone を SIM フリーにして使用していますが、LINE が使えなくなったり不具合が生じたりします。

いま日本でも SIM フリーの携帯電話がたくさんあるので、もし持っていれば役に立つと思います。

### 3. 中国インターンシップを通じて成し遂げられたこと、また成長できたと感じたこと

このインターンシップで、生徒達ととても仲良くなりました。週末は天津の観光をしたり、映画を観に行ったりしてどんどん距離を縮めました。プライベートでも交流することで、生徒たちの日本に対する関心が深まったと実感しました。日本に興味がなく、大学受験がきっかけで日本語を勉強し始めた生徒達が、会うたびに私がよく使う日本語を覚えてきて、授業中の態度がとても積極的になりました。年齢が近いということもあり、フレンドリーに交流することで日本に興味を持ってもらい、日本の良さを伝えることができました。逆に私は、中国人の学生の習慣や文化を身近に感じることができました。

また、私は自身の適応能力が成長したと思います。表現が悪くなりますが、中国の仕事は非常にルーズです。インターンシップ開始当初に聞いていた予定が、どんどん変更になります。授業終了日や仕事内容の変更、追加で仕事の依頼がたくさんありました。初めは戸惑いを隠せず、関西外大国際交流部の担当の方に相談させていただきました。それから、いつでもなんでも適応できるように心構えをし、YES・NOをはっきり伝えることにしました。すると、気持ちは楽になり仕事も順調にこなせるようになりました。自分の意思をはっきりさせ、その場に適応していくことが、大きく成長できました。

さらに、私はコミュニケーション能力が向上したと実感しました。週に 5 回、約 50 人の前で授業するという事は、話し方・ジェスチャー・表現能力がとても重要です。そして、今までに経験したことがないほど緊張します。だんだん慣れてきますが、この時に一番大切なのがコミュニケーション能力です。生徒全員の様子を覗いながら授業を進めるので、次第に生徒達と丁寧にコミュニケーションができるようになりました。

### 4. 後輩たちへひとこと

このインターンシップは、誰でもできる経験ではありません。留学の延長線でもなく仕事をする教師として中国で生活します。そのため、普段なかなか考えないことをたくさん考えてたくさん悩むと思います。ですが、あまり深刻に捉えず楽に考えて、悩んでいることも楽しんでください。どんなことも楽しむのが一番です。

中国での生活は、時間の流れがゆっくりと感じるでしょう。インターンシップが始まってから、時間に余裕はあると思いますが心に余裕がないと思います。そんな時はたくさん休んでください。慣れてくると時間も心も両方余裕が出てくるので、それから全力で頑張ればよいと思います。



とにかく、後悔しないよう毎日を楽しく過ごしてください！応援しています！！



写真 1 流行りの ofo(レンタルサイクル)に乗って花見に行く途中



写真 2 生徒と一緒に桃の花鑑賞



写真 3 桃の花公園









写真 7 イタリア街の芝生でシャボン玉遊び







写真 10 日本語学部1年生のゼミナル大会。彼らのクラスは中国と日本の伝統衣装の比較を発表しました。



写真 11 関西弁を教えてほしいとお願いされ、週末は一日中関西弁で会話をしました。





写真 12,13 天津外大で世界美食フェス開催！生徒と参加しました。





写真 14,15 広告学部の生徒と火鍋。彼女たちも日本語が必修科目。





写真 16,17 夜の天津外大



写真 18 週末遊びに出かけるときはよくタクシーを利用します。



写真 19 テスト前自習の様子





写真 20 8組の生徒達



写真 21 7, 8組の皆にサプライズでプレゼントを貰いました。





写真 22 7組の生徒達



写真 23,24 9, 10組がサプライズで大きなケーキをくれました。





写真 25 9, 10組の生徒達(一番賑やかで明るいクラス)



写真 26 スピーチ指導をした生徒が特等賞を受賞した様子